

F L L 全国大会 & 寒苦鳥（かんくちょう）

2023.2.20 校長 西谷 秀幸

昨日、F L Lの全国大会があり、5年生チームのSPARK、6年生チームのINFINITE、卒業生（中学1年生）チームのRYKSの3チームが出場しました。残念ながら、2年連続で世界大会に出場することはできませんでしたが、6年生中心のチームのINFINITEが、コアバリュー賞という「チームでの活動が日本で一番素晴らしい」という賞を受賞しました。（トロフィーの授与）

.....

さて、今日は、昔のインドの話を紹介します。

昔々、雪がたくさん降り積もるインドの山奥に、寒苦鳥（かんくちょう）という鳥が住んでいました。この鳥は、ものすごく怠けものの鳥でした。なんと、自分の巣を作らないのです。

昼間は太陽が出てとても暖かくなります。だから、寒苦鳥は歌を歌ったり、遊び回ったりしていました。



夜になると、他の鳥たちは自分の巣に帰りますが、自分の巣を作らない寒苦鳥には帰る家がありません。雪山ですから、夜はものすごく寒いです。木の枝で寒さにブルブルと震えながら、寒苦鳥は「あー寒い。明日こそは、怠けないで絶対に巣を作ろう！」と涙を流しながら決心しました。

ところが次の日になると、太陽が出て暖かくなるため、寒苦鳥は前の日のことをすっかり忘れて、いつもと同じように遊び回りました。そして、夜になるとまた「明日こそは、巣を作ろう！」と決心します。しかし、その次の日になると、暖かさでまた巣を作ることを忘れてしまうのでした。

こんな風に、毎日毎日同じことを繰り返して、寒苦鳥はついに巣を作ることなく、むなしく一生を終えてしまいました。

「明日はやろう、明日はやろう」といつも思い、反省するのですが、行動に移せない鳥、それが寒苦鳥です。

ここまで聞いて、「あれ？これって自分に似ているなあ。」と思った人はいませんか。どんな人の心にも「寒苦鳥のような怠ける心」はあります。しかし、その心に打ち勝って、やることをしっかりとやっていかなくは成長がありません。

今の学年もあと少し、学校に来るのは22日間（6年生は23日間）です。みなさんは寒苦鳥になることなく、やることをしっかりとやって新しい学年を迎えましょう。

これで朝会のお話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

先週は、今年度最後の学校公開、お疲れさまでした。また、「いたばし学級活動の日」での学級会の公開、ありがとうございました。継続的な指導が必要な学級会ですから、子供たちの「主体性」を育むために、これからも指導の充実をよろしく願います。

さて、昨日19日（日）にFLLの全国大会がありました。3チームとも12月の東京予選大会からロボットゲームの得点を伸ばそうと改良を重ねましたが、得点を伸ばすことができず、2年連続の世界大会出場は叶いませんでした。また、先輩チームに引き続いて3年連続での「イノベーション・プロジェクト賞」（研究発表部門のトップ賞）も狙っていましたが、それも叶わず、年々レベルが向上していることを実感しました。しかし、6年生チームのINFINITEが「コアバリュー賞」というチームビルディングに優れたチームに贈られるトップ賞を3年ぶりに受賞し、5年連続でのトロフィーをいただくことができました。これまで、応援していただいたり、夕方以降の第一多目的室を優先的に使用させていただいたりと御協力をいただき、ありがとうございました。

話は変わりますが、今回の「寒苦鳥」の話は仏教説話として有名なのだそうで、「雪山（せっせん）の寒苦鳥」などとも言われています。古くは『平家物語』の中にも、「寒苦鳥」という言葉が見られます。巻第九「生ずきの沙汰」には、「たゞ平家の人々は、いつも氷にとどこめられたる心地して、寒苦鳥にことならず」とあり、『曾我物語』の巻第七「李将軍が事」にも「われらが有様を物にたとふれば寒苦鳥ににたり」と記されています。

ちなみに、この「寒苦鳥」の話には、結末が何通りかあり、寒さに凍えて終には死んでしまう話だけでなく、仏様が出てきて助けてくれる話もあるようです。いずれにせよ、やるべきを後回しにすることが昔の子より多い今の子たちに「やるべきことをきちんとやれば何事もうまく進む。やらないでいるとあとで後悔することになる。」ということをしつかりと教えたいですね。

学年に合わせて、教室での補足説明など、よろしく願います。

2月も下旬、今年度もあと4週間と3日、授業日数は22日間（6年生は卒業式を含めて23日間）となりました。明日があるから…ではなく、一日一日、今やるべきことを一つ一つ行っていきたいですね。今週は保護者会もあります。よろしく願います。

【資料】雪山（せっせん）の寒苦鳥 ～決意してもすぐ忘れる愚～

昔、インドの雪深い山に、鳥のつがいに住んでいました。昼は太陽の光が当たるので、山でも暖かくなります。鳥たちは陽気に浮かれて、のんきに遊んでしまいます。ところが、夜になると昼とは打って変わって、厳しい寒さが鳥たちを襲います。昼間、楽しく遊びほうけてしまったことを激しく悔います。メスは「寒くて死んでしまうわ」と一晩中、泣き叫びます。オスは「夜が明けたら、巣を作ろう」と固く決意し、妻を懸命になだめるのでした。そのような苦しい思いをしながらも、夜が明けて暖かくなると、すっかり忘れてしまい、また昼間1日、遊びほうけてしまうのです。鳥たちは、夜は寒さに苦しみ、昼は遊びほうけるとことを繰り返していきました。そして、ついに、巣を作ることなく、むなしく一生を終えました。（この鳥たちは、雪の山に住み、寒さに苦しむということで「雪山の寒苦鳥」と呼ばれています。）

日蓮は、人間もまたこの寒苦鳥と変わらないと述べている。死んで地獄に堕ち、火に

かれて苦しむ時は、「今度、人間に生れたら、仏道修行に励んで成仏しよう」と決意するけれども、たまたま人間に生まれた時には名聞名利を追い求めて仏道修行を忘れてしまう…と。目的を達成するためには、日々、新たに発心し、決意するだけでなく、それをどれだけ持続できるか、実践し続けることできるかが肝要なのである。